

研究種目：特定領域研究

研究期間：2007～2012

課題番号：19046004

研究課題名（和文） 組織構造の分析と設計

研究課題名（英文） Design and Analysis of Organization Structures

研究代表者

下村研一（SHIMOMURA KEN-ICHI）

神戸大学・経済経営研究所・教授

研究者番号：90252527

研究代表者の専門分野：ミクロ経済学、実験経済学

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学，経営学・経営学

キーワード：組織，市場，意思決定，経済合理性，経済実験，ビジネスゲーム

1. 研究計画の概要

企業組織行動に関する科学的な研究として、個人と組織の意思決定過程の相互依存構造を理論と実験で解明することを目的とする。この研究は、経済学・経営学の学際領域に位置づけられるが、本研究は「組織」という経営学寄りの問題意識をモデルやビジネスゲームという経済学寄りの手法で解答することを特色とする。企業の意思決定の構造の本質をよりの確に把握するために、経済的合理性を基礎とする理論に加え心理状況にも注目した総合的な研究を行ないたい。本研究では特に注目する要素が異なる組織の理論モデルの構築とその検証用の対照実験の設計を行い、できれば大学の授業にも役立つ実験を考えたいと思っている。

2. 研究の進捗状況

2007年度は、まず経営学における組織の先行研究に関する勉強会を開催し他大学の研究者との共同研究体制の基盤を整備した。具体的には、組織構造と経営戦略、ビジネスゲームのそれぞれの分野の専門家が、それぞれ

の領域の基礎事項について解説した後に研究分担者全員で本研究にどう生かすべきか検討した。特に分担者が被験者としてビジネスゲームの実演に参加し、勉強会で学んだ組織モデルが既存のビジネスゲームにどう組み込まれているか検討したことは有益であった。また実験会計学の権威シャム・サンダー教授（米）を招聘し、フォーラムの基調講演と分担者との共同研究体制確立を依頼した。

2008年度は、海外（米、ベルギー）の研究者の指導助言の下での組織の理論モデル構築、国内の理科系の研究者の協力を得ての脳のMRI実験、そして前年度に引き続きビジネスゲームの応用可能性の開発という試論的研究を行なった。組織行動の理論モデル化については、海外の研究者と意見交換を行い、実物的な変化（たとえば大企業の数）に対する市場と組織の反応につきモデル分析を行なった。またMRI実験を開始し、理科系の科学者と有益な研究交流を行った。さらにビジネスゲームを一部の分担者が自身の担当の授業（流通科学大学）で用い教育への有益性

を確認した。

2009年度は、前年度までで定まった組織理論モデル構築、MRI 実験、ビジネスゲームという3つの研究方法を担当の分担者がそれぞれ特定の問題に適用し「有意義な実験が可能か」について考察した。まずモデル構築ではアジアでの日本企業の戦略を例に取り、データの収集と調査及び研究会を通じモデルの確かさとあるべき実験の設計を討議した。またMRI 実験は証券市場と企業組織に人の心理がどう関わるかにつき、その基礎となる脳の動きを探ることを試みた。さらにビジネスゲームでは事業経営モデルを開発し、その教育効果を調査した。それぞれの結果は現在整理中である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

「おおむね」というのは、組織理論モデル構築は「③やや遅れている」であり、MRI 実験とビジネスゲームは「①当初の計画以上に進展している」からである。より詳しくは、組織理論モデル構築は、現在までモデルの定式化と日本企業の事例研究はそれぞれ論文と著書という形で一応の完成に至ったが、実験によるモデルの説明力の検証まで至っていないからである。だが、MRI 実験、ビジネスゲームはそれぞれ理科系の研究者との連携研究、大学教育の現場での実演という当初予定になかった斬新な方法で研究が進んでいるため、総合して達成度は②と判断する。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 組織モデル構築にかかる理論と実験：企業の組織競争モデルのなるべく簡単な実験を設計しフィードバックを行いつつ継続する。日本企業による海外市場への参入戦略と撤退行動が説明できるモデル構築を目指す。
(2) MRI 実験：証券市場問題と組織問題に共通する人の心理的問題を抽出し、その意思決定の基礎となる脳のMRI 実験を行なう。

(3) ビジネスゲーム：仮想現実での事業経営シミュレーションモデルの開発と、それを活用した実践型経営演習を授業（流通科学大学）の中で継続する。また、他の既存のシミュレーションソフト（ゲームエンジン）との併用も行う。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者分担者及び連携研究者に下線）
〔雑誌論文〕（計5件）

① Chan, Christine M., Shige Makino and Takehiko Isobe "Does subnational region matter? Foreign affiliate performance in the United States and China", *Strategic Management Journal Online*, 1-18, 2010, 査読有

② Yamaji, Hidetoshi and Masatoshi Gotoh "Cognitive Bias in the Laboratory Security Market", *Computational Economics*, Vol. 35, No. 2, 101-126, 2010, 査読有

③ Shimomura, Ken-Ichi and Jacques-François Thisse "Competition among the big and the small" *Discussion Paper Series in Centre for Operations Research and Econometrics at Université catholique de Louvain*, 2009/47, 1-33, 2009, 査読無

④ 小笠原宏, 「企業組織の属性分析の新たな分類法と投資重視の戦略構築手法の提案 [1] -M-M-Iモデルの提案-」, 流通科学大学論集 流通・経営編, 第21巻第2号, 101-114, 2009, 査読無

⑤ Isobe, Takehiko, Shige Makino and David B. Montgomery "Technological Capabilities and Firm Performance: The Case of Small Manufacturing Firms in Japan" *Asia Pacific Journal of Management*, Vol. 25 No. 3, 413-428, 2008, 査読有

〔学会発表〕（計2件）

① 山地秀俊, 「PUNISHERS WON'T BE REWARDED」, The Eleventh Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2010年1月30日、RivieraHotelConvention Center (米国)

② 山地秀俊, 「実験会計学の意義と限界」, 日本会計研究学会第67回大会、2008年9月9日、立教大学

〔図書〕（計1件）

① シャム・サンダー, 山地秀俊 (編著), 神戸大学経済経営研究所, 「日本のもの造り組織指向の会計と国際会計」, 75-96, 2009年

〔その他〕ホームページ

<http://www.rieb.kobe-u.ac.jp/daos/>